「いわき応援大使」情報交換会

東京都港区　1/28(火)

＼いわきの目指す方向性をPR／

＃応援大使　＃情報交換会

１月28日「いわき応援大使情報交換会」を第一ホテル東京（東京都港区）で開催し、いわき応援大使17人と２団体が参加しました。

同交換会では、市長講話として「いわき市の政策の方向性」について市の現状や今後の政策内容の説明を行いました。応援大使の皆さんからは、いわき市に対する貴重なアドバイスをいただくなど、活発な意見交換が行われました。

▼応援大使の詳細はこちら

写真が語る「いわき」の歴史

消えた街、新しい街

■写真１　平字三町目の本町通り・皇太子誕生記念。屋台の背後あたりが焼け出された
〔昭和９（1934）年４月　小泉屋文庫提供〕

■写真２　平字三町目の本町通りと駅前通りの交差点。三町目東側は２車線、手前の三町目西側は一方通行へ〔令和３（2021）年10月　小宅幸一撮影〕

平（現・いわき）鉄道が敷設されて以降、駅前から真っすぐ三町目を経て、南方に通じるメインの道路開削が課題となっていました。しかし、本町通りの字三町目を横断するには、人家が立錐（りっすい）していて除去するのは至難の業（わざ）でした。

この状況が解消されたのは太平洋戦争でした。日本の戦局は次第に悪化。日本は空襲にさらされるようになりました。昭和20（１９４５）年７月28日の夜、アメリカ軍によって、平駅前から南方に幅10～20ｍにわたり細長く、焼夷弾が雨あられのように落とされたのです。

戦争終結後の戦災復興土地区画整理事業では、幅員30ｍの駅前通りの建設が採用されましたが、この道路確保によって、字三町目は駅前通りで東西に分けられることになり、以来、本町通りにおけるまちづくりは別個に考えられるようになっていったのです。

（いわき地域学會　小宅幸一）